

E-2 中高年夫婦のダイナミックスと構造(第1報) 勢力の側面
金城学院大家政 O古谷昭, 昭和女大家政 浮須婦紗, 東京芸大教育,
国村瓦代, 日本大短大 二階堂ひさ子

目的 家族構成の縮小, 男女平等意識の昂り, 家事労働の質的变化, 婦人就業の増加などの社会変動も受け, わが国の夫婦関係は大きな変容をとげつつあるものと予測される。われわれは, そうした夫婦関係の実態をダイナミックに捉え分析する研究に取り組んでいる。今回は, その研究の予備的調査として, 中高年夫婦にありする勢力と葛藤の側面を中心に検討を行ったので, その結果を報告する。

方法 (I)全体, 共同研究者4人のそれぞれの所属大学の学生100名の母親を調査対象とし, アンケート方式による調査を行った。調査期日, 昭和54年5月下旬より6月上旬, 調査対象数1,200, 有効回答数865, 有効回答率72%。

(II)勢力について。夫婦勢力の測定は, ブラッドとウォルフの方法を踏襲し, 10の意思決定事項にたいする自己評定を求めることで行った。

結果 これまで報告されているわが国夫婦の勢力の調査結果に比べて, われわれの調査対象である中高年夫婦では夫優位型が多く出現している。その他妻の職業の有無, 結婚満足の程度, 家族感などとの関係での勢力の差異が現われることなどを明らかにした。